

東北作業療法学会  
特別号



Vol, 35 No. 2  
2018. AUG



秋田県作業療法士会 印刷 川嶋印刷株式会社

発行 一般社団法人 秋田県作業療法士会 ホームページ <http://akita-ot.jpn.org/>  
会長 高橋 敏弘  
編集 一般社団法人 秋田県作業療法士会広報部  
〒018-5421 秋田県鹿角市十和田大湯字湯ノ岱 16-2  
大湯リハビリ温泉病院 作業療法室・児玉 達則  
TEL 0186-37-3511 FAX 0186-37-3483  
E-mail akita\_ot\_kouhou@akita-ot.jpn.org  
事務局 〒010-0041 秋田県秋田市広面字屋敷田 25-2 セジュールエスト 105 号  
TEL/FAX 018-837-0552  
E-mail akita\_ot@akita-ot.jpn.org

今年の東北作業療法学会は秋田県で開催されました。そこで今月号を「東北作業療法学会特別号」として特集を組みました。学会に参加された聴講者・発表者・座長それぞれの視点で感想を頂きましたので、皆様に楽しんで読んでいただければ幸いです。

学会長より

第 28 回東北作業療法学会全体総括

学会長 石川 隆志

学会テーマ「作業療法の根拠と成果～よりよい作業療法実践を目指して～」の下、企画立案とその具体化、会期中の運営について責任者を中心に進めていただいた。実行委員長の高橋恵一先生、事務局長の久米裕先生、各部署の責任者の先生方には大変なご苦勞をおかけしたが、お陰様で 80 題の演題と 462 名の参加者を得て、成功することができた。ご尽力いただいた実行員および理事会役員、参加いただいた会員に感謝したい。

本学会では、教育講演、シンポジウム、市民公開講座、一般演題に加え、新たな企画として事例報告セッションを設けた。本文では主にこれらについて総括したい。

教育講演では（一社）日本作業療法士協会の制度対策部保険対策委員長の梶原幸信先生に「平成 30 年度診療報酬・介護報酬同時改定」について講演いただいたが、作業療法の臨床実践が法律や制度抜きには成り立たないこと、常に保健・医療・福祉を取り巻く社会情勢や制度に目を向ける必要があることを理解いただいたのではないかと。



シンポジウム「地域リハビリテーションと地域包括ケアシステムにおけるリハビリテーション専門職の役割」では、介護老人保健施設せんだんの丘支援相談員の三浦晃先生、あかね会訪問リハビリテーション事業所所長の菅原章先生、南相馬市健康福祉部長寿福祉課地域包括ケアシステム推進係の伊賀裕貴子先生から、地域医療や地域包括ケアシステムにおける具体的かつ実践的なお話をいただき、作業療法士に求められる役割について多くの示唆を得られたと思う。

市民公開講座では、東京都健康長寿医療センター研究所副所長の新開省二先生から、「健康長寿と栄養」について講演いただいた。コホート研究の成果に基づいた非常にわかりやすい内容であり、作業療法士だけでなく聴講された市民の皆さんにも有意義であったと思う。

事例報告セッションには多くの事例報告が集まりセッション中も盛況だったので、その目的を達成できたと考えている。事例報告セッションの座長には事前準備と当日の進行とフィードバックでご苦勞をおかけした。また、事前の広報や抄録作成、当日の発表などに関してはいくつかの課題もあったが、今後の事例登録につながる企画となったと思う。

学会に参加いただいた他県士会役員の皆様や講演・シンポジウムの講師の先生方からも、学会の内容と運営について多くのお褒めの言葉をいただいた。改めて秋田県士会の行動力とまとめ、そして暖かな人柄（組織柄？）を実感した。

学会は実行委員会だけではなく、準備と運営で多くの業者に協力をいただくが、協力業者の定期的な顔合わせの場を設ければ、よりスムーズな準備と運営ができたのではないかと感じている。

本総括依頼は、高橋実行委員長より次を見据えて配信されたものであるが、このように県士会が取り組んだ事業の成果と課題を蓄積することは、今後の組織運営の財産になると考える。



## 聴講者の方から

### 教育講演を聴講して

(秋田県) 市立大曲病院 伊藤 裕太郎

平成30年6月23日に秋田市文化会館で第28回東北作業療法学会が開催され、梶原幸信先生の教育講演を聴講する機会をいただきました。

今回の教育講演のテーマは「平成30年度診療報酬介護報酬同時改定の概要と課題」でした。診療報酬は2年、介護報酬は3年毎に改定され、平成30年は同時改定の年にあたります。同時改定ということで、それぞれの改定があった点やその背景について触れられていました。

今回の改定のポイントとしては地域包括ケアシステムの構築や医療・介護現場の新たな働き方の推進（人員や施設、必要スペース要件の基準緩和など）とのことでした。私は精神科の単科病院へ勤務していることや勉強不足もあり他科の診療報酬や介護報酬に関して、わからないことばかりだったのでとても参考になりました。また改めて自身の知識不足を再認識することができました。これから医療と介護の連携を深めるため更なる努力が必要だと感じました。

各制度改定について、高齢者リハビリテーション研究会の提言が根拠になっています。具体的な提言内容は急性期リハビリが不十分、長期間にわたる効果のないリハ、リハとケアとの境界が不明確、在宅のリハが不十分の4つです。これらを改善できるように各制度改定がされているとのことでした。そのため結果を出していない、出していないというように思われていることが、点数が低いことの背景にあります。それが悔しいと思ったら結果をしっかりと出して、プロ意識をもって取り組む必要があるとのお話が特に印象に残っています。作業療法士として働いているのに専門性をしっかりと発揮できているのか、プロ意識をもって働いているのか、結果をしっかりと残すことができているのか、改めて考えることができました。

地域に根付いた生活の実践について、このようなお話がありました。作業療法士は、地域に根付いた生活の実践をすること、制度の理解をしながら個人として地域に密着・定着すること、地域にその人として認められることによって色々な仕事の中においても必要な存在になっていくとのことでした。私自身も職業人としてではなく、まず地域にその人として認められることが大切だと考えており、とても共感することができました。私自身馴染みのない土地で働きはじめて数年がたち、そして家庭を持つようになってきたころから地域に馴染んできた感覚を持つようになりました。そうすると不思議と働いていて見え方が少し変わってきたように感じていました。

今回の講演を聴講して日々の業務を一生懸命に取り組み、結果を出し続けることが大切だと改めて感じました。また自身の従事する職場の制度だけではなく、地域の他の事業所の取り組みや制度をしっかりと把握することや地域の理解を深め、馴染むことが大切だと思いました。

最後になりますが、今回の教育講演を講義して下さった梶原幸信先生をはじめ、本学会を主催していただいた役員の皆様、印象記の執筆の機会をくださった皆様に御礼申し上げます。



## 地域 OT の底力 ～地域の伝統と作業療法～

(福島県) 会津中央病院 堀金 尚

秋田県で行われた東北作業療法学会では、たくさんの人と多くの実践報告が集まり大変な盛況でした。自分の発表以外のセッションでは、特に地域で活躍されている OT のお話に深く感銘を受け、同士である作業療法士として尊敬と誇らしさを覚えました。やはり地域は人と環境、集団力動で効果を発揮する作業療法の力が必要であると感じました。地域サロン活動での運営アイデアだったり、行政 OT の視点で地域住民の健康を考えたりと OT の知識と技術が地域でいかされている！素晴らしい！！と思いました。急性期病院で働いている私にとってとても良い刺激となりました。

「悪い子はいねがー」「なく子はいねがー」と奇声を発しながら練り歩き、怠け者や子供を探して暴れる伝統的民俗行事なまはげ。聞くところによれば、実際は高齢化と地区の人口減、子供がいる世帯の減少化などがなまはげの衰退に繋がっていると聞きました。地域高齢者の介護予防事業に地域の風習や教育、伝統などを活かしたアクティビティの企画・発想力は OT の得意とするところです。地域の方が「あの人ならば良く話を聞いてくれるし何かやってくれる！」と思われる存在に作業療法士ならばなれると思いました。



## 公開講座「健康長寿と栄養」を聴講して

(岩手県) 栃内第二病院 齊藤 幸太

第 28 回東北作業療法学会、最終プログラムの公開講座は新開省二先生による「健康長寿と栄養」というテーマでした。ここ最近、地域包括ケアシステムや診療報酬改定等の話題が多い中、一見作業療法の事とは離れる内容なのか、または食事から ADL に繋がるような内容なのかと思いながら聴講させて頂きました。実際にお話を聴くと、作業療法士として、医療・介護に関わる者として、また地域の一員として普段生活している生活者としても関係がある講演内容でした。

学会誌の中で欧米人に比べ日本人の肥満の割合は低く、やせの割合が高いと書かれており、講演の中でも低栄養が問題、小食・粗食では長生きできないと聞いた時に私は少し驚きました。それは日本では食べるものも豊富だし、テレビ等では、メタボリックシンドロームやダイエット、高血圧、肥満の予防等の内容が溢れる中、やせや低栄養の方が問題なのかということに衝撃を受けました。しかし、実際医療・介護の現場を思い返すと、確かにやせすぎの高齢者、アルブミンの値が低く、リハビリが上手く進まない、廃用の進行等の問題はよくあると思い

ました。日本では 2000 年～やせが問題となっていて、若年層では肥満児と同じようにやせている子供の問題も多いということ、若い女性もやせている傾向が強い事等、高齢者だけでなく我々働いている世代にも関係がある事も驚きました。BMI、アルブミン、コレステロール、ヘモグロビンが低いと心血管系の病気のリスクが上がる、生活自立度が下がり要介護認定を受けやすくなるという事から作業療法を進めていく上でも栄養は重要な項目だという事を再認識する機会となりました。

ただ、低栄養だからといっても、やはりバランスは重要で、さまざまな栄養素をバランスよくしっかり摂ることは、認知症の予防にも繋がる事の事でした。また、講演の中で先生は高齢者が多様な栄養素を摂ることだけでなく、孤食の問題にも触れており、高齢社会の日本では高齢者が誰とも話すことなく、食事をしていることも問題だと話されていました。確かに日本では核家族化や独居の高齢者も多く、社会参加の機会が減る高齢者にとっては認知機能低下や低栄養の進行を助長させることだと知りました。高齢者は調理や買い物などの困難が増え、そこには作業療法士が関わることが多い部分でもあるため、重要であると再認識しました。また、新開先生の地域への関わりで紹介していた内容で高齢者のコミュニティキッチン(男の料理教室)・会食等はまさに地域包括ケアに当たる部分であると思われ、今後作業療法士が地域へ進出していく事でもとても参考になる内容でした。

個人的な話になりますが、私は去年 10 年ぶりくらいに岩手に戻り生活しており、祖母と同居しています。久しぶりに地元に戻ると、祖母も含め地域の高齢者がまさに今回の講演の内容にも当てはまるなど感じる事が多々ありました。田舎に行くと交通手段が限られ、買い物に行くことの困難さや高齢になるにつれ調理が難しくなること、それに伴い栄養のバランスが崩れやすくなること、若い世代がいる家庭でも日中は孤食の機会が多い事等、様々な事を感じた講演内容でした。今後作業療法士として、地域で生活する一生活者として、今回聞いた健康寿命と栄養の観点から何が出来るか考えたり、周りに伝えたり、少しずつ実践できれば地域包括ケアに繋がる可能性があると感じたので、ぜひ取り組んでいきたいと思う機会になりました。



## 発表者の方から

### 「東北作業療法学会での発表」

(宮城県) 東北医科薬科大学病院 虎岩 辰弥

今回で、東北作業療法学会への参加は 2 回目になります。前回は入職して間もなくの参加となり、いろいろなことを吸収しようという新たな気持ちで挑んでいました。今回は発

表を通じて、同じような境遇の方とセッションが出来れば、より治療に対する視野が広がるのではないかという思いでした。一つの治療に対して同じ職種としての関わり方、他職種との関わりや連携についての大切さを考えさせられました。実際には抄録の作成から発表まで、自分の演題と向き合うことで治療の現状を知ることができ、患者様により良い医療を提供できるように治療のシステムや内容を改善することができました。学会への参加で、それを改めて見返すことができました。

他の発表も多く拝見し、実症例を通した各方面からのアプローチは自分にとってプラスな刺激になりました。また、作業療法士の強みを知ることが出来ました。作業療法の幅の広さを活かすために今後、取り組んだことのない領域への勤勉に励みたいと考えています。



秋田は、おいしいものがたくさんあります。何度来ても初めてのものを食し、何度来ても初めてのものをお土産として購入できます。私がお酒に強かったら、もっと奥が深い秋田の魅力を感じることができたと思えます。

## 第 28 回東北作業療法学会での発表を通して

(福島県) 介護老人保健施設ひもろぎの園 滝本 桃子

平成 30 年 6 月 23～24 日に秋田県秋田市にて、第 28 回東北作業療法学会が開催されました。「作業療法の根拠と成果～よりよい作業療法実践を目指して～」とのテーマのもと、口述発表、ポスター発表、そして初の試みという事例報告セッションに多くの演題が集まりました。

今回、私は「布団で寝起きしたい」「歩けるようになりたい」と強く希望した事例に対する生活行為向上マネジメントを活用した関わりを報告しました。介入中に事例の想いの変化し、再び納得できる生活像を設定するまでに難渋したため、この学会を機に多くの先生方からのご意見をいただき今後活かしていきたいと考え、発表をすることにしました。

学会の当日はとても緊張しましたが無事に発表することができ、座長の先生から多くのアドバイスをいただきました。いただいた助言を通し、関わりの中で対象者の想いの変化する可能性があるため、その想いに寄り添っていかなければならないこと、想いが少しでも実現できるように、家族への働きかけや介入方法の検討を行う必要があることを改めて学ぶことができました。今後も今回の事例のように強い希望を持っていたり、介入中に想いの変化していく方と出会うことが考えられるため、学んだことを活かしていきたいように努力していきたいと思えます。また、多くの先生方の報告も聴かせていただくことで、より良い作業療法の実践のための学びにつながる多くの刺激を得ることができました。

学会 2 日目のシンポジウムでは、「地域リハビリテーションと地域包括ケアシステムにおけるリハビリテーション専門職の役割」について介護老人保健施設せんだんの丘の三浦晃先生、あかね会訪問リハビリテーション事業所の菅原章先生、南相馬市健康福祉部長寿福祉課の伊賀裕貴子先生よりお話をいただきました。私自身が今年度より地域ケア会議に助言者として出席することとなり、対象者や事業所の方々に作業療法士としての視点で必要な助言ができるのかと悩んでいました。先生方のお話の中にあつたように、地域の方々に作業療法士としての魅力や役割を理解していただけるように連携をとっていくこと、助言する際には QOL の生命レベル・活動レベル・生きがいレベルの 3 段階に分類し、作業療法士としては特に活動レベル、生きがいレベルを中心にしつつも必要な場合は生命レベルへも視点を向け、包括的に対象者の生活に必要な助言をする必要があること等、具体的な視点を学ぶことができました。今後の会議に活かしていきたいと思ひます。

最後になりますが、学会長の石川隆志先生をはじめとした実行委員・秋田県作業療法士会の皆様の丁寧できめ細かな対応で、実りの多い、有意義な時間を過ごすことができました。多くの貴重な体験をさせていただいたことに、感謝しております。



## 座長の方から

### 第 28 回東北作業療法学会に参加して

(山形県) 鶴岡協立リハビリテーション病院 安野 仁

第 28 回東北作業療法学会が、6 月 23 日(土)、24 日(日)の二日間に亘り、秋田市文化会館で盛大に開催されました。石川隆志学会長の下、学会テーマは「作業療法の根拠と成果～よりよい作業療法実践を目指して～」ということで、東北県下の作業療法士が一堂に会して、日頃の作業療法実践やその根拠などを多めに報告し議論し合いながら、多くの作業療法士の方々と交流できる絶好の場に参加させて頂きました。

二日間で延べ約 450 人を超える参加人数と、80 演題を超える演題報告があつたとお聞きしており、非常に活発で有意義な学会に参加させて頂いたことを心より感謝申し上げます。また、石川学会長のご尽力もあり、今学会では新たに事例セッションが設けられたことで、事例報告が非常に多く提出され、多くの作業療法士の方々が日々実践されている成果を学び合い共有できたように、今回座長を務めさせて頂いた立場からも感じております。

加えて、教育講演では作業療法士協会制度対策部保険対策委員長の梶原幸信先生より、昨今の診療および介護報酬同時改定の概要と課題について、様々な関連資料などを提示いただきながら、協会での取り組みなどを踏まえ、今後の方向性や対応について改めて確認し再

考できる大変良い機会となりました。

二日目のシンポジウムでは、3名のシンポジストの方より、それぞれの地域で展開されている地域リハビリテーションと地域包括ケアシステムにおけるリハビリテーション専門職の役割をそれぞれの立場からご講演頂き、今、我々作業療法士に求められる役割と責任について熟考できる貴重な機会となりました。

一般公開講座では、東京都健康長寿医療センター研究所副所長であります新開省二先生より、近年リハビリテーション栄養が注目されつつある中で、「健康長寿と栄養」をテーマにご講演頂きました。これまでの高齢者の疫学研究データや、最新の研究による食品摂取における多様性の重要性などの興味深い話題を、非常にわかりやすく拝聴でき、一般参加の方々を含めとても有益な学びの場になったと感じています。

そして、学会のもう一つの楽しみであるレセプションでは、秋田の食材をふんだんに使った料理に舌鼓をうちながら、17種類もの地酒コーナーもありまして、会場は大いに盛り上がっていました。私もここぞとばかりに、全種類の地酒を頂きました。驚愕したのは、会場では実行委員の方が地酒マイスターをされておられまして、全種類の日本酒の良さや特徴を詳細に話しされていたのには本当に驚きました。更に余興では、軽快な面白トークを折り入れながらの本場の秋田なまはげ太鼓演奏が雄大に披露され、会場に居た皆が心振るわされたことと感じております。私も初めて拝見しましたが、非常に感銘を受けました。このような地域の伝統芸能は大変貴重な文化財でもありますし、その地域をより元気にするためにとても重要な作業活動なのだと再認識しました。そして、その一端を担うことが出来るのも、作業療法の可能性や真理なのではないかとも私自身感じました(少し大袈裟過ぎるかも知れませんが…)。

結語になりますが、今回の秋田で開催された第28回東北作業療法学会に参加させて頂き、本当に素晴らしく有意義で楽しい学会だったと率直な感想です。これも一重に、鋭意準備に当たられた秋田県士会の実行委員皆さまの並々ならぬ努力の賜物と感じております。末筆ながら、学会準備にご尽力された秋田県士会の皆さまには衷心より感謝申し上げます。

今回の秋田で開催された東北作業療法学会の成功を受け、益々の秋田県や東北の作業療法が発展し進化していくことを、一参加者代表として切に願っています。



リハビリテーション機器・生体現象測定装置等販売

高度管理医療機器販売事業 04-000026号

**有限会社バイオテック**

代表取締役 飯塚清美

〒010-0041 秋田市広面字碓 80-1

TEL018-837-0161

FAX018-837-0162



## 第 29 回東北作業療法学会のご案内

この度、第 29 回東北作業療法学会を山形県山形市において開催する運びとなりました。

松本信学会長の下、山形国際ホテルにて 2019 年 6 月 22 日（土）～23 日（日）の開催に向け、現在、常任実行委員を中心に鋭意準備を進めている所であります。今学会のテーマは、「地域共生社会に向けて～みんなで創ろう支え合う地域～」です。そしてキャッチフレーズとして、「あい（I・合い・愛）は地域をすくう！」と題して、開催主管県士会は勿論であります。東北の各県士会員の皆さまが参加しやすい、或いは参加して良かったと思えるような学会にしていくことをコンセプトに、若い実行委員を中心として様々な企画を熟考している所です。

1990 年に、岩手県作業療法士会が主管となり、第 1 回東北作業療法学会が岩手県立病院で開催されて以来、29 年もの歴史を重ね、その規模も内容も進化・発展してきております。学会長のお言葉をお借りすると、東北作業療法学会とは、この 29 年間東北の各県作業療法士会と、そこに結集する作業療法士たちが創りあげてきた歴史と文化そのものであり、私たちの通ってきた軌跡そのものが東北の作業療法を創りあげてきたことだと確信しています。その一端を担う学会が今回、山形の地で開催出来る事を非常に嬉しく、光栄に思っております。

秋田で開催された第 28 回東北作業療法学会で深められた東北の絆を更に深められるよう、そして、秋田学会に引けを取らないような楽しく有意義な学会にすることを実行委員一同お約束します。

来年、山形の地で東北県下の作業療法士の皆様とお会いできる日を楽しみにしております。そして、皆様のご参加を心より歓迎致します。

第 29 回東北作業療法学会 副実行委員長兼広報部長  
山形県作業療法士会 安野仁



### 広報部から

広報部のメールアドレスが新しくなりました。

E-mail [akita\\_ot\\_kouhou@akita-ot.jpn.org](mailto:akita_ot_kouhou@akita-ot.jpn.org)

ご用のある方は、次回からはこちらのメールアドレスを使用してくださいようお願い致します。

## 編集後記

暑い時期が続いておりますが、皆さんどうお過ごしでしょうか？

今回は先日行われた東北作業療法学会の特別号となっております。大いに盛り上がった学会の勢いを日々の臨床、さらに来年度の山形大会へとつなげて頂けたらと願っております。

PS.この時期のビールのCMの魅せ方が素晴らしすぎるとは思いませんか？(笑) JUN

## 広報部から

### ・会員異動の際は、お早めにお知らせください。

県士会ニュース「きりたんぼ」では会員の異動情報(新規入会・退会含む)を取り扱っております。正確な情報をお届けできるように、広報部一同、これからも頑張っていきますので、異動の際はお早めにお知らせください。

連絡先は事務局メールアドレス [akita\\_ot@akita-ot.jp](mailto:akita_ot@akita-ot.jp) です。ご協力お願い致します。

### ・研修会情報をお知らせしております。

余白を有効活用して、県内で開催される講習会・研修会情報を公開しております。院内での小さな勉強会でも構いません。「他の病院から参加者を募り、実りある研修にしたい」「情報交換をしてお互いの技術や知識を高めたい」その思いが秋田の作業療法を発展させます。みんなで秋田を盛り上げていきましょう。情報お待ちしております。

宛先はこちら [akita\\_ot\\_kouhou@akita-ot.jp](mailto:akita_ot_kouhou@akita-ot.jp)

(一社)日本義肢協会登録  
東北 101 号



株式会社  
千秋義肢製作所

義手・義足・装具・車椅子  
リハビリ用品

秋田市新屋豊町 1-22

TEL 018-823-3380

FAX 018-862-5126

<http://www.sensyu-gishi.co.jp/>

立位移動補助具 アクティーモ NR  
SAKAImed  
**actimoNR**

早期活動を促す  
新しいリハビリテーション

脳卒中発症後早期の方でも、下肢・体幹を支持保持して安全に立位姿勢を保てる設計で、早期からの立位・移動リハビリテーションに最適です。



お問い合わせ先

酒井医療株式会社  
[www.sakaimed.co.jp](http://www.sakaimed.co.jp)

東北支店 盛岡営業所  
(青森・秋田・岩手エリア担当)  
TEL : 019-656-5336

東北支店 仙台営業所  
(宮城・山形エリア担当)  
TEL : 022-390-6840

仙台営業所 郡山オフィス  
(福島エリア担当)  
TEL : 024-927-0231